

鬼追い～加古川の鶴林寺

加古川市加古川町北在家の鶴林寺では、1月8日の修正会悔過法要(しゅしょうえ けかほうよう)のあと、鬼踊りが行われます。鬼踊りの前に本堂(国宝)外陣で謡曲「安田吉道」が謡われます。須弥壇の前の大机に12枚(閏年は13枚)の土器(かわらけ)が置かれ、宮殿の南東の隅には、大餅が吊り下げられます。須弥壇の前に3本のイネノハナが立て掛けられます。

イネノハナは細い竹を12本(閏年は13本)赤い紙で巻き束ね、白い花型を紙で作って、数枚ずつを貼付けたものです。イネノハナは右から早稲、中稲、晩稲となっており、垂れ具合で豊作が占われます。

赤鬼は左手に斧、右手に松明、槌を背負い、青鬼は鉾を持っています。小鬼は櫂の棒を持って、向かい合って床を叩きます。須弥壇の東端から、赤鬼・青鬼が登場し、屈んだり、四股を踏んだりする所作を繰り返します。また、途中まで進むと、鬼は結界を越え、松明を振り、鉾を振り回して外陣に踊り出し、暴れます。須弥壇の前を東から西へ移動する動きを繰り返し、その後、内陣の東側に吊り下げられた大餅を、鬼がついて落とします。本堂から僧侶や鬼役などが餅をまき、最後は、無病息災などを願って、僧侶が梵の字の印を来場した人々の額に押しつけて終わります。



○兵庫県の鬼追い、追儺式、鬼踊りについて

兵庫県では、摂津から播磨にかけて、鬼追い・追儺式・鬼踊りと呼ばれる仏教色の濃い民俗芸能が伝承されています。分布密度は、鬼の芸能が多く伝承されている奈良県や大分県よりも高いようです。



一部神戸市長田区の長田神社追儺式(県指定)のように神社に伝承されているところもありますが、多くは、天台宗、真言宗の密教系寺院で、新年を迎え、一年の安寧や五穀豊穡、安全等を願う修正会に、祝福をもたらす鬼として登場します。

現在の神戸市垂水区、西区、そして須磨区の一部は旧明石郡に属し、明石郡は播磨国でしたので、現在の垂水区多聞台の多聞寺(1月5日)や垂水区名谷町の転法輪寺(1月7日)、西区押部谷町の性海寺(成人の日)の鬼追いなども、もとは播磨国の鬼追いでした。



鶴林寺の鬼追い(加古川市指定)と同じ日(1月8日)に行われる加西市上万願寺町の東光寺鬼会(国指定)は、夜に行われ、松明の火を柱に打ち付け火花を散らす、荒々しい鬼が登場する素朴な行事を現在に伝えています。



加古川市には、鶴林寺のほかにも、平荘町の報恩寺(建国記念日)、上荘町の日光山常楽寺(4月はじめ)でも鬼追いが伝わってきました。また、稲美町野寺の高菌寺(2月9、10日)にも鬼追いが伝わっており、本堂観音堂において、毘沙門天の化身の赤鬼と不動明王の化身の青鬼が除災、五穀豊穡を祈って、太鼓とほら貝の音に合わせて踊り、松明を群集に向けて投げつけます。稲美町の指定文化財となっています。

